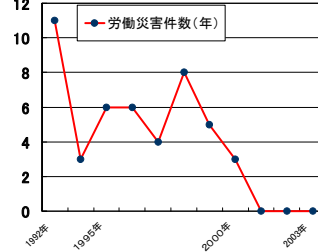


「予防技術の具体化」を徹底して進める ケガ・ゼロ安全対策

解説： **ケガ・ゼロ技術を身につけ実践へ！** 学ぶべき、ケガ・ゼロ事例の取り組み

ハインリッヒの法則を正しく運用した予防対策を、次の点視点で扱い、各社の安全対策の具体化を支援します。

- ① 全体的な取り組み→小集団責務管理へ
- ② ハザードMAPを職場、仕事毎に作成し、予防策を徹底
- ③ 航空機業界が行う訓練・資格制度に似た訓練システム(CRM)の活用で、安全技術を習得～実務展開へ



苦労した点と得た点

- ① 生産現場は文章を書くことが不慣れな人々が多いので、リスクアセスメントは負担になった。だが、トップ層の熱心な繰り返りで、この問題は解消へ向かった。
- ② 従来はボトムアップを期待した活動が中心だったが、今回のトップダウン方式は早く、徹底がなされる。
- ③ 休憩スペースが安全対策に関与する、という本音の提案も得た。

「導入1年で労災ゼロを達成！」した要点

「トップの思い」: 事故が減らない、という現実！安全で働きがいのある職場を従業員に提供するためにも、労働災害をゼロにしたい！(1999年11月)

危険度を先取りするリスクアセスメントに注目
2000年4月にはSSS2000と名づけた安全システムの稼働を開始した
「危険度の頻度」「ケガの可能性」「けがのひどさ」という3つの局面から、作業内容を細かく分析し要因を洗い出し評価～対策へ向ける方式

リスクレベル	措置
A: 繊細なリスク	措置不要
B: 許容されるリスク	管理維持、監視をする
C: 中程度のリスク	リスク軽減措置を期間内に実行
D: 重大なリスク	リスク低減まで業務再開禁止
E: 耐えられないリスク	業務続行禁止

2. 多くの企業が取り組んでこられた内容~問題と対策(現状分析)

3. 現場管理者が凶 安全徹底有効策

① ほとんどの企業が全体的は安全対策

- (1) 安全教育
- (2) KY・訓練
- (3) 安全監査・診断(巡視)
- (4) イベントとキャンペーン(安全月間など)
- (5) 危険個所の表示
- (6) エラーセーフ機器装備
- (7) 日々活動(朝礼・安全五規の唱和など)

② 安全優良企業でも持つ悩み

- (1) 安全対策に関する知識ベースでは充当する内容がほとんど無い!
- (2) 企業全体で行う安全対策システムに残余の企画は少ない。
- (3) 職場は多忙、安全順守実務面で差が発生

- ① 多忙ではできない
→ 超・時間活用術の投入が必要
- ② 大人数管理は不可能
→ 管理の分散化が必要
小集団程度のリーダー分散管理
- ③ 単なる教育・刺激策
→ 資格制度と活用が必要
では、沈滞する
(但し、毎年更新、事故で剥奪)

支援手順(例)

- ① アンケート (ニーズと課題) ~現状把握の実施
- ② 全体研修(1日研修)
テーマ: ① 事故の事例解析~原理解析
② 一流安全対策技術と訓練法
③ ハザードMAP対策~活用へ
- ③ 個別職場の対策内容フォロー
実施事項をオンラインで相談
- ④ 現場にて対策内容チェック
~残余の課題と安全資格の検討

JMA・HE対策技術の利用

④ ヒューマン・エラー発生と対策ステップ

悪意による犯罪行為とヒューマン・エラー対策は峻別・区分して取り扱う

刑法、民法など犯罪対策内容の適用範囲へ

